

真言三宝宗大本山

清荒神 清澄寺

Kiyoshikōjin Seichō-ji Temple



略沿革

清荒神清澄寺は、平安時代の初め、寛平八年（八九六）宇多天皇の創意による勅願寺として創建されました。当時は、猪名の平野や武庫の浦が一望に見下せる山の尾根に清澄寺を、そして西の谷に荒神社が設けられました。

讃岐国の名工、定円法眼が天皇の命をうけ、曼陀華の香木で刻んだ大日如来像を本尊仏とし、叡山の高僧静觀僧正を迎えて、開山の祖とし、真言宗東寺の長者、益信僧都を導師として開創されました。

益信僧都は、この聖地に荒神尊を祀り、仏法守護、三宝の加護を祈つたところ社前にあつた榦の木に、荒神尊の御影がありありと現出されました。これが『荒神影向の榦』といわれています。

宇多天皇は、この靈験の報告を受け大変感銘され『日本第一清荒神』の称号を下賜されました。

寿永二年（一一八三）源平合戦の兵火により、近在の寺社、当山の諸堂は惜しくも焼失しましたが、源頼朝の手によつて再興されました。

それよりおよそ四百年の後、織田信長に反旗を翻した荒木村重の伊丹の合戦により再び炎上しましたが、西の谷（現在地）の荒神社のみは、再度の兵火にも災いを免れました。これはもとより荒神尊王の靈験によるものとうかがえます。

江戸の末期、一代の名僧淨界和上の諸堂再建に続き、第三十七世法主光淨和上に至り寺運ようやく開け、昭和十二年、三宝三福の教理に基づく真言三宝宗を開き、荒神信仰の總本山清荒神清澄寺として新しく法幢をかかげました。

また、光淨和上は、画聖富岡鉄斎翁との機縁により、晩年の傑作を中心にして鐵斎作品を収集し、これらを国内外に紹介し、その人類愛と平和精神を世界に呼びかけました。

第三十八世法主光聰和上は、その遺業を継承し、昭和四十六年に当山にお詣りの皆様にご利用していただくための清邦文化会館を、また昭和五十年には鉄斎の作品を永く後世に伝えるため、鉄斎美術館を建設し、一般に公開しています。



第三十九世法主光謙和上は、平成十一年に鉄斎美術館に併設する新収蔵庫を、平成二十年に長年の構想を経て史料館を建設しました。宗教と芸術を通じて、清荒神に参詣される多くの人々の心に平和と安らぎを与えたいたとの先々代、先代和上のご精神を体し、開山草創の原点に立つて日々努力を続けております。

❖ 諸堂案内

天堂

山門をくぐり、樹齢四百年の銀杏の巨木を背後に、石畳の坂道と石段を登りつめたところ。東面した拝殿から浴油堂が棟づきになり、毎日二座、三宝荒神・歡喜天尊の合行如宝浴油供の秘法が平和と繁栄、愛と福德の祈りをこめ厳かに行われ、秘密の戒壇として、何びとも入座は許されません。



す。正面には大勝金剛転輪王、向かって右には歡喜童子、左には弁財天が安置されています。周辺には絵馬や祈願成就の千羽鶴が奉納され、美しい景観をつくっています。

眼神祠と龍王堂

往事、ここに靈水が湧き出で、眼の悪い人たちが目を洗つて病を癒したといわれます。一名、眼神様。龍王堂の本尊は善女龍王。すべての生命を守る水神社で、古くから酒造、農業、火防の神として信仰をあつめています。

納札所

古いお札、布袋尊などを納めるところ。本尊は妙見菩薩。布袋尊は七福神のひとりで、この一年願いごとの叶ったお札詣りをし、新たな一年の幸せを祈つて、前よりも一段大きい像を授かり家に祀り、古いものはここに納めます。

厄除火箸納所

火箸はかまどの神様として信仰される荒神尊にあやかり、厄年の人人が無事を祈つてわが家に祀り、いつのころからか、厄が終ると新しい火箸を添えてここに納める風習がはじまりました。

行者洞

岩壁をくりぬいて、そこに修験道の開祖、役行者（神変大菩薩）が祀られています。役行者にはすべての病気、災難のないようとの諸仏の大悲が加わるものとされています。

眷属堂

三宝荒神王の眷属（従者）である布袋尊をお祀りし、ご祈祷の受付、三宝荒神王御尊影（おふだ）、御守、厄除開運火箸などを授与しています。

宝稲荷社

山腹につけられた石段の途中にあります。明治時代、当時の忍隨和上と光淨和尚がある夜、同じ稻荷明神の夢をみたことからここに新しく祀られたもので「宝稲荷大明神」とよばれています。



護法堂

本堂

安政年間に棟上げされたもので、天堂とならぶ重要な建物。正面には大日如来、向かって左に不動明王、右に弘法大師が祀られています。内陣には、真言密教の象徴ともいいうべき、六尺四方の大曼荼羅壇が置かれ、中央には舍利塔、四面には密具が安置され、ここでは毎日、大聖不動明王の秘法が修行されていきます。現在の建物は平成の大修理により五年の歳月を掛け、平成五年に完成しました。堂前に、賓頭盧尊者（十六羅漢の一人）の座像があります。



一願地蔵尊像

本堂前の石段を下りたところ、山の泉がコンコンと湧いて絶えません。巨大な唐金造りの地蔵尊の頭に、柄杓の水を高々とあげながら一心に一つだけお願いすれば叶うといわれています。一名、水かけ地蔵さん。



護牛神堂

天堂に登る右側の小堂。堂内前方には本尊「牛頭天王」が祀られています。牛頭天王はインドの祇園精舎の守護神であり、厄除けの神、恵方神として知られています。後方は、僧侶修行の課程の護摩を焚く儀式に使用されます。

弘法大師像

真言宗開祖弘法大師が錫杖と鉄鉢を手に諸国を巡歴された行脚姿の立像。一般に「修行大師さま」とよばれています。



練行堂

本堂の真裏にあり、本尊大日如来のほか二十数体の仏像が安置され、僧侶修行の道場となっています。

このほかに、山門、鐘楼、経蔵、御供所、庫裡、百鍊堂、春光庵、講堂、収藏庫など四十棟が、全山、みどり濃い山峡のなかに建ちならび、諸堂に祀られた諸神、諸仏は四十数体にのぼります。それらすべて福德繁榮を祈る神仏で、愛と平和に生きるその篤い信仰によつて、ご信者の皆様に親しく拝まれているのが特徴と申せましょう。

聖光殿「鉄斎美術館」

清澄寺の所蔵する約千二百点の富岡鉄斎作品を年間数回、企画展示し、鉄斎の偉大な芸術作品をより多くの方々にご鑑賞していただかようとしています。入館料の全額は宝塚市中央図書館内に「聖光文庫」を設け、美術図書購入基金として宝塚市に寄付しています。



◆入館料

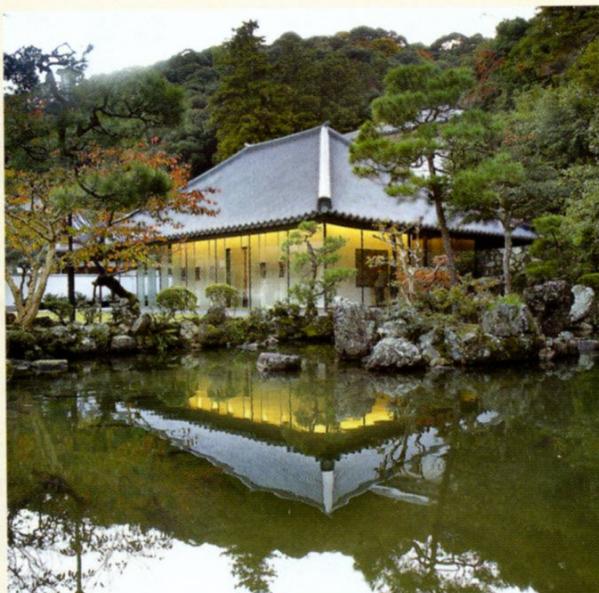
一般三〇〇円 大・高生二〇〇円

中・小生一〇〇円
老人手帳、障害者手帳を提示された方は、入館料が半額となります。

電話〇七九七一八四一九六〇〇

史料館

当山の歴史、信仰、行事の説明と共に幾多の什物や所蔵品を順次展示し、三宝三福の教理に基づく宗美一体の理念をご紹介して広く荒神信仰の布教の場として活用するものです。



清邦文化会館

芸術文化、社会福祉のための集会などに講堂や会議室を会場として無償で開放し、社会文化の発展にいささかなりとも貢献せんとする趣旨で建設されたものです。

使用に際しては細則がありますから、会館窓口・電話にてお問い合わせください。

〒六六五一〇八三六

宝塚市清荒神五丁目三番六十号
電話〇七九七一八七一〇四〇二



◆開館時間——十時～十六時三十分

(但し入館は十六時まで)

◆休館日——毎週月曜日

(祝日、振替休日と重なる場合は、翌火曜日休館)

夏期、冬期に休館します。
展示替えのため臨時に休館することがあります。

◆開館時間——九時三十分～十六時三十分

(年末年始、八月中旬、展示替の時は休館)

◆入館無料

主要大祭暦

元日より三日間	新年祝禱三宝大祭
一月 二十七・二十八日	初三宝荒神大祭
二月 節分の日	荒神星祭
四月 二十七・二十八日	春季三宝荒神大祭
十二月 二十七・二十八日	納三宝荒神大祭
年中行事	
毎月 一日	月旦祭
二十一日	弘法大師御影供
二十七・二十八日	月並三宝例祭
一月 十七日	阪神淡路大震災追悼の日
二月 二回目の午の日	二の午祭
三月 十五日	涅槃会
五月 彼岸の日	春季彼岸会
六月 二十一日	弘法大師正御影供
八日 二十一日	仏生会・花まつり
十五日 二十一日	弘法大師降誕会
七月 孟蘭盆会	
八月 地藏盆大施餓鬼会	
九月 秋季彼岸会	
十二月 荒神星祭開白	

♦♦♦御来山交通案内

阪急電車

宝塚線 清荒神駅下車 徒歩約十五分

(タクシー利用の時は宝塚駅下車)

J R

宝塚線 宝塚駅下車 タクシー約十分

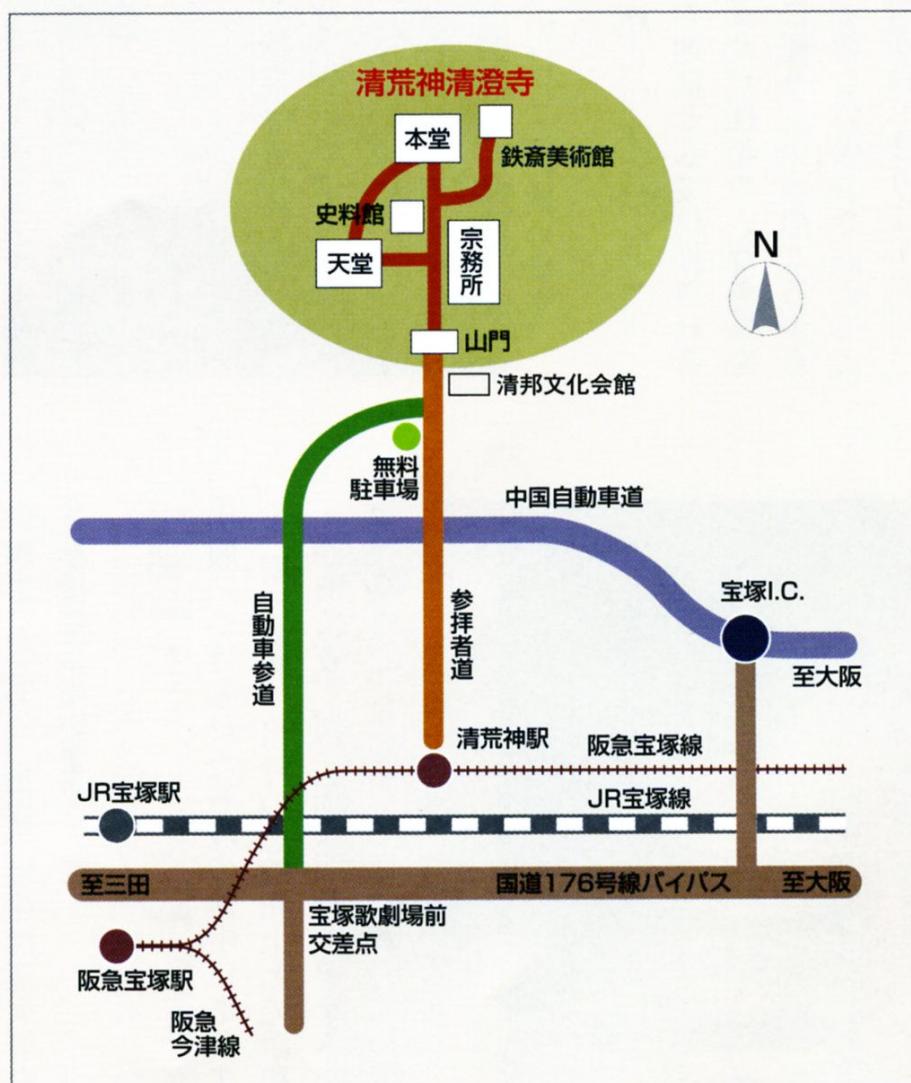
臨時バス

一月の交通規制日に宝塚駅より清荒神駐車場まで運行しています。

運賃(片道)大人二一〇円 小児一一〇円

自家用車で御来山の時は、国道一七六号線宝塚歌劇場前交差点北約二キロメートル(無料駐車場をご利用下さい)

*年末年始は自動車道路がたいへん混雑し宝塚警察署により交通規制がおこなわれますから、できるだけ電車をご利用下さい。



*お知らせ

当山は、ご家庭を訪問し、御札・御守りなどを授与したり、加持祈禱・寄付勧誘等は一切いたしておりませんのでお間違いのないようご注意下さい。

〒六六五一〇八三七
兵庫県宝塚市米谷字清シ一番地

TEL 〇七九七一八六一六六四一
FAX 〇七九七一八六一六六六〇

ホームページ <http://www.kiyoshikojin.or.jp>

発行／清荒神清澄寺 印刷／株式会社 便利堂